

## 解答

一  
 問一 ア くふう イ そうち ウ かいりょう エ ほそ 「く」 オ しょり  
 問二 あ 旗 い 徒 「つて」 う 願 「い」 エ 気軽 お 延長  
 問三 移動手段 (を) 足 (と言い表すこと)  
 問四 車や鉄道  
 問五 (1) 車や鉄道 (2) 速く移動する (ため。)  
 問六 耳 純  
 問七 わたしたちが体を使って行うことをもっと高性能にしたもの  
 問八  
 問九  
 問十  
 問十一  
 問十二  
 問十三  
 問十四  
 ア 俳句 イ 意識 ウ 回想 エ 注文 オ 元気

ア くふう イ そうち ウ かいりょう エ ほそ 「く」 オ しょり  
 あ 旗 い 徒 「つて」 う 願 「い」 エ 気軽 お 延長  
 移動手段 (を) 足 (と言い表すこと)  
 車や鉄道  
 (1) 車や鉄道 (2) 速く移動する (ため。)  
 耳 純  
 わたしたちが体を使って行うことをもっと高性能にしたもの  
 (5) エ (6) イ  
 鉄は、農機 う ています。  
 ウ (使い) こなし (て)  
 1 ウ 2 エ 3 ア

「便利」や「自動」を受け入れるときに現れるかもしれない「悪い面」を予測する力。

## 解説

一

問七

——線部④の前後から、農機具やポンプ等は、あらゆる工夫によって人の要求を実現させるために改良を重ね、発展してきた技術の具体例であり、「わたしたちが体を使って行うことよりもっと高性能にしたもの」であることがわかります。

問十四 本文では、人は古くから、自分たちの欲求を満たそうと、工夫を凝らし、便利さや快適さを実現してきたが、すべてが歓迎すべきことではないと述べています。便利などをどんどん取り入れていくことは、「よい面」しかないように思えるが、それはほんの一面にすぎず、「便利」や「自動」を受け入れるときに「悪い面」も予測できなければならないことを指摘しているので、これらの内容をわかりやすくまとめます。

二

問ア

第一段落では石川啄木の短歌と尾崎放哉の「俳句」について挙げています。

問イ 「人は無意識のうちに手のひら眺めるのかも知れない。」という記述から「意識」があてはまります。  
 『手のひらを太陽に』は、季刊『詩とファンタジー』の最新号で当時を「回想」し、深夜の仕事場で何となく懐中電灯で手を照らしていく浮かんだ詩句ということがわかります。

『漫画の注文もない不遇の時代に』という記述から「注文」があてはまります。  
 「その歌はいま、被災地で歌われ、傷ついた子供たちの心を元気づけている。」という記述から、被災地の子供たちに与えているものは「元気」であることがわかります。

オ エ ウ イ